

会 議 録

| | |
|-----------|---|
| 会 議 の 名 称 | 平成26年度 第2回 所沢市行政経営推進委員会 |
| 開 催 日 時 | 平成26年9月22日(月) 午後6時から午後6時40分まで |
| 開 催 場 所 | 市役所高層棟3階 301会議室 |
| 出席者の氏名 | 一ノ宮淑子、植村尚史、大崎映二、河登一郎、斉藤祐次 |
| 欠席者の氏名 | 石川久、藤井多希子 |
| 説明者の職・氏名 | |
| 議 題 | (1) 第5期行政経営推進委員会報告書について(公開) (2) その他(公開) |
| 会 議 資 料 | ○所沢市の行政経営に関する報告書(素案) ○コーホート・シェア延長法による所沢市超長期将来人口推計(試算)及び将来人口推計をもとにした将来医療費推計 【藤井委員作成】 ○行政経営に関する所沢市への提言【河登委員作成】 |
| 担 当 部 課 名 | 経営企画部長 中村俊明、経営企画部次長 平田仁、 政策企画課長 鈴木哲也、政策企画課主幹 磯稔、 政策企画課主査 粕谷広和 経営企画部政策企画課 電話 04(2998)9027 |

様式第2号

| 審議の内容（審議経過・決定事項等） | |
|---|---|
| <p>(1) 第5期行政経営推進委員会報告書について（公開）</p> <p>(2) その他（公開）</p> | |
| 発言者 | 審議の内容（審議経過・決定事項等） |
| 大崎委員長 | <p>(1) 第5期行政経営推進委員会報告書について（公開）</p> <p>今回の議事は、報告書の素案について承認いただくということと、その他ということで進めさせていただきたい。第5期行政経営推進委員会報告書については、紆余曲折はあったものの、こういう活動報告という形でまとめさせていただいた。報告書をまとめるにあたっては、大きなテーマから具体的なテーマへという流れでまとめたつもりである。それから、より具体的な政策提案や、文章にうまく入れられなかった部分については、最後に参考意見としてまとめさせていただいた。</p> <p>今回、この素案という形でまとめたところだが、この段階でさらにこうしたほうが良いというような意見があればお願いしたい。それから、報告書と合わせて、藤井委員が作っていただいた専門的な資料と河登委員から出していただいた資料について、報告書に添付するということを考えている。</p> |
| 河登委員 | <p>当初の報告書案は、今までの委員会における委員の発言集という形であったので、より多くの市民に読まれ、明日の所沢へのヒントになる形にまとめていただきたいと思います。その趣旨で、発言の要点を委員長がまとめられたということで良いか。</p> |
| 大崎委員長 | <p>メールでのやり取りではあったが、発言要旨から文章の中に引用した部分について、確認していただきながらまとめたつもりである。ただし、要旨から漏れているようなところがあると良くないという懸念はある。</p> |

| | |
|-------|---|
| 河登委員 | <p>これまでの発言集よりも、今回まとめていただいた素案のほうが、報告書として良いと思う。</p> |
| 斉藤委員 | <p>報告書の論点については、このような感じで良いと思ったが、最終的に公表するにあたって、現状の把握と将来の見通しは書いてあるが、もったこうの方が良いという提案がなくても良いのかなというところがある。例えば、藤井委員の人口推計資料についても、現状を変えないで行くところなるという分析だが、どこかが変わるところ変わることが示せると良いと思う。</p> |
| 大崎委員長 | <p>そういう意味では、そこを考えていただきたいから、たぶん藤井委員がこの資料を出されたということだと思う。この資料も含めて今後の政策形成に生かしていただきたいということだと思う。</p> |
| 斉藤委員 | <p>これは、市にお願いして、この資料を基により良い未来図を作ってほしいという意味で出されたということで良いか。</p> |
| 大崎委員長 | <p>報告書案の中にも書いたが、藤井委員が関わったところでは、各部署ばらばらの人口推計を使っているというような例もあるということだから、それは良くないのではないかとということが書かれている。各部署でうまく活用していただきたいということで出されたのだろうと思う。それで、いわゆる具体性というところは難しいと思う。そもそも市としての政策選択の話というものは、石川委員も過去に発言されているが、一つの政策をしようとした時に、さらに補強しなければいけないような、あるいは突き詰めていかなければならないような材料が出てくる場合がある。例えば、河登委員も提案されているが、誰が考えても企業誘致は必要であるという時に、離れた所に出来るのは良いけれど、うちの隣は嫌だというような水準の話も出てくる。そこを調整するのは、まさに政治だと思う。その政治のところの意思決定に生かしていただきたい、というところで一歩手前という話になるのではないかと私は考えた。</p> |

| | |
|---------------|---|
| <p>齊藤委員</p> | <p>報告を受けた行政側で汲み取って、生かしてもらえるのであれば良いと思う。</p> |
| <p>大崎委員長</p> | <p>今後のことであるが、一つのテーマについて、例えば、扶助費が全体の中で増加していることが財政上一番厳しいという時に、扶助費を下げていくためにどうしていくのかということについて、ある種の市民参加みたいな形で議論していただくことは有り得るかもしれない。</p> |
| <p>植村副委員長</p> | <p>非常に良くまとめていただいたと思う。同時に、この委員会がどこまで何を言うべきなのかが掴めないというところもあって、私がこの報告書案で一番ポイントだと思ったのは、2ページの下の方の「どういう所沢でありたいか」というところであり、これによってやるべきことが全然違うと思う。例えば、「若い人がどんどんやってくる所沢にする」ということであれば、長期人口推計は大きく変わってくると思う。国全体の人口推計はあまり変わらないが、地域間移動は激しいので、そこが所沢にとって大きく変わってくるし、それによって医療費なども変わってきてしまう。「どういう所沢にするのか」という土台と具体的な方向が決まれば、その後の方法論の中で意見を述べられると思うが、「どういう所沢にするのか」が無いのに、「あれもやりましょう。これもやりましょう。」というのは、なかなか言いづらいところもある。この報告書案では、「このまま行くと、こういう問題が起こる」というのを考えたうえで、「どういう所沢にするのか」をみんなで話し合っ決めてもらうための材料を出したということだと思う。そういうところで、この委員会の役割は果たしたということだと思う。</p> |
| <p>大崎委員長</p> | <p>そもそも市あるいは市長がこの委員会に今期は何を求めるか、ということも次期の課題にさせていただいて整理していただく必要があると思う。その辺りは、改めて、最終回なのでお願いしておきたい。</p> |

| | |
|-------|--|
| 一ノ宮委員 | この報告書は、どこにどういう形で出て、どういう方がお読みになるのか。 |
| 大崎委員長 | 私が承知しているのは、この委員会自体が条例に定める市長が設置する審議会等という括りなので、この報告は市長に行くということである。その後、どこまで、どういう形で使われるのかというところが、今の時点で見えているのであれば、事務局のほうでお答えいただきたい。 |
| 事務局 | 市のホームページで公開させていただいている。過去のものも全て見られるようになっている。 |
| 一ノ宮委員 | そうすると、良くまとまっているが、いろいろな方がお読みになるので、強調したいところを太字で書くなどすると、わかりやすいと思う。私は、読む立場のほうから考えながら読んでみたのだが、いろいろな角度からの意見があるが、一番言いたいところを強調して提示できたら良いなというふうに思った。 |
| 大崎委員長 | <p>それについては、事務局でもう一度そういう視点で見直していただいて、強調できるような技術的なことがあれば整理していただくということによろしいか。</p> <p>実は、この報告書をまとめていくにあたって書きづらかったのは、自分の考えであれば原稿用紙20～30枚は簡単に書けるが、この意見とこの意見を生かしてどうつなげていくかという方法で行ったところである。そういう意味では、委員の皆さんの言っていることを、逆に平たく繋げてしまったという欠点があると思う。</p> |
| 一ノ宮委員 | <p>いろいろな実例や、案など、あることについて書かれている時に、どれもがもちろん納得いくのだが、要はここで言いたいことは何かというものを強調するということである。</p> <p>報告書案でいうと、「より必要な事業を選別する時代である」というところ、「財政上の危機感が共有されていることが前提となる」という</p> |

| | |
|--------------|--|
| <p>河登委員</p> | <p>ところや、職員の意識改革、市民の意識改革というようなところ、それから、「何を残し、何を捨てるのか」とか、「原点に立ち返る」ということ、などを強調されると、さらに理解しやすくなるのではないかと思います。</p> <p>私も自分でアンダーラインを引きながら読んだが、当初の発言集の形のまま報告書にするのはどうかと申し上げたのは、それだと皆さんが読んでくれるのかということと、明日の所沢がそれを読んで良くなるというのが見えなかったということからである。この報告書案は、そういう意味では、単なる発言集ではなくて、委員の発言を取り込んで、まとめていただいたという面では非常に良くなっている。</p> <p>ただ、力作なだけに、これを全部読んでいくと疲れるということもある。折角なので、この報告書を市長だけではなくて、行政の責任者の方とか、議員さんとか、それから市民有志とか、いろいろな方に読んでもらいたい。それで、明日の所沢に少しでもプラスにしてもらいたいというのが報告の目的だと思う。一ノ宮委員がおっしゃるように、文章を書き出すのは大変なので、ポイントの所だけでもゴシック体にするという方法はあると思う。</p> <p>それに対して、私の作成資料は箇条書きにしたので、何を言っているのかは、ポイントを見ればわかる。アンダーラインも引き、なるべく具体的に書いたつもりである。これを参考にさせていただいて、次の行政行為に結び付けていただければと思う。そういう意味では、私の提言を報告書に添付していただくというのは、大変有り難いと思う。</p> |
| <p>大崎委員長</p> | <p>明日以降の所沢市に生かしていただくという前提で、ここで発言のあったようなところを、ビジュアル的にもう一段工夫したうえで完成形にさせていただくということで、その対応は事務局と、もし必要であれば私に相談していただいてまとめたいうえで、各委員にメールでお知らせするという形にさせていただいてよろしいか。</p> <p>(委員了承)</p> |

| | |
|-------|---|
| 河登委員 | 細かいことだが、この中にいくつか他の自治体の例が出ているが、自治体名をローマ字で伏せている。これはそのままなのか。 |
| 大崎委員長 | これは私が書いたのだが、自治体名を出すのが一番インパクトがあるが、その自治体に迷惑をかけることも有り得ると思うので、このようにさせていただいた。 |
| 河登委員 | こういうところで、具体的な名称を出したほうが、読む人からすれば、「もう少しこれを調べてみよう」という時に参考になると思う。 |
| 大崎委員長 | 仕事上、講演の場などでは自治体名を言うこともあるが、資料上はどのように伏せるというのが無難だと思う。迷惑をかけることの一つは、例えば、ある取り組みについて賛否両論があるという中で、視察が集中してしまうということが現実にある。そういうことも含めて、この対応が礼儀なのだと思う。自治体によるということもあるが、そういう判断をしたものである。 |
| 河登委員 | 報告書を読んで、ここをもっと勉強してみたいという場合は、事務局に聞けば教えていただくということによろしいか。 |
| 大崎委員長 | <p>それは一向に差し支えないと思う。その時に、他市に迷惑がかからないようにしてもらおうよう、事務局で言うておけば良いと思う。</p> <p>ほかに意見はいかがか。特に無いようであれば、この後、強調したい部分を事務局に工夫していただくということを前提に、基本的にはこの素案で了承いただくということによろしいか。</p> <p>(委員了承)</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>(2) その他（公開）</p> |
| 大崎委員長 | <p>委員会そのものについての意見も出たが、「その他」として何かあれば発言をお願いしたい。</p> |
| 齊藤委員 | <p>委員会そのものという点で言えば、何回か会議をやっている中で、この委員会の役割がいろいろな場面でいろいろなことが出たと思うが、行政経営上、生かせるのであれば生かしてもらったほうが良いのかなという場面がたくさんあった。</p> <p>職員の人たちがやるべきことはたくさんあると思うが、その中で職員自らが責任を持つのではなくて、外部である委員会に責任を負わせて実施できるものが多分たくさんあると思う。それをやらなければいけない時期に来ているのではないか。</p> |
| 大崎委員長 | <p>今後の委員会の活用法ということで、参考にとということである。本来は、総合計画を基準にものを考えて経営していくべきなのだが、部署がまたがると難しいというのは、どこの自治体でも出てくる話である。</p> |
| 植村副委員長 | <p>いずれにしても、この行政経営推進委員会が何をやるべきなのかということ、市側が明確にして委員会に責務や権限を与えないと、言っただけで終わってしまうというところがある。</p> |
| 大崎委員長 | <p>そういうところで言うと、ここで第5期が終了ということで、ちょうど開始から10年間たったわけである。そういう意味では、10年前にこの委員会に求めていたことと、行政が10年間動いた今の時点で求めていることとに、もしかしたら違いがあるかもしれない。この委員会に何を期待するのか、何を議論させたら市の経営に生かしていけるのかということ、その中の一つが、齊藤委員がおっしゃった「より具体性をもった庁内の調整」であり、そのほかにもあるかもしれないが、市側のほうでまずはそこを整理していただいても良いと思う。</p> |

| | |
|--------|--|
| 植村副委員長 | <p>「どういう所沢でありたいか」というのを先ほど言ったのも、恐らく10年前は悪く言えば総花的に「あれも頑張ります」「これも頑張ります」というその頑張り方についての意見を出すということだったのかもしれないが、今はそういう時代では既になくなってきている。そうすると、あれもこれもではなくて、「この期の委員会では、是非ともこれをやってもらいたい」ということを明確にさせていただく必要があると思う。</p> |
| 斉藤委員 | <p>10年前というと、まだ人口が流入していた時期なので、そこ今は全然違うと思う。</p> |
| 大崎委員長 | <p>最近、新聞報道で見たが、S県K市が、転入して住宅を買った40代の人に固定資産税を最大7年間免除するという政策を打ったという事例がある。これは、明確に近隣市から人を呼び込む具体的な戦術である。この時、K市に従来から住んでいる40代の人たちとの公平性をどうするのか、ということが表裏一体で付いてくる。一つの政策を立ち上げるのは、いろいろな面があって難しいこともあるが、テーマを絞ってもらえれば委員会の中でいろいろな意見は言えると思う。</p> |
| 斉藤委員 | <p>先ほど委員長もおっしゃっていたが、自治体間の人口の奪い合いなので、そこをどうやって勝ち抜くかというのを真剣に考えて行って実施したほうが良いと思う。</p> |
| 植村副委員長 | <p>かつては極端な話として話していたが、最近はそうでもなくなってきた事例として、「住所地特例」を活用して高齢者をどんどん増やしていくということがある。そこで高齢者を世話する人たちの雇用の場が生まれ人がどんどん増えていくが、高齢者にかかる負担は元の市が全部持っているという、そういう町にするってということも現実検討し始めているということがある。そうもしないと、働く場所が無くて人が定着しないというようなことも起こってきている。</p> |

| | |
|-------|---|
| 河登委員 | その問題は本当に深刻になってきたというのは、平成25年度で所沢市の人口が初めて減ったということがある。人に定着してもらうための政策がこれからのトレンドだと思う。 |
| 大崎委員長 | そういう意味では、もう少し突っ込んで議論するテーマもあるということである。そういうことも含めて、第5期までの10年間を総括して、第6期以降、委員会に何を期待していくのかということも、市として整理していただきたいということによろしいか。 |
| 河登委員 | 今おっしゃったのは、行政の課題として困っていることを、具体的に提案してもらいたいということで良いか。 |
| 大崎委員長 | 具体的な結論という形で出すのか、あるいは専門的知見の中でいろいろな意見を出すことを求めるのか、そのスタンスをはっきりしてもらいたいということである。 |